

こんじゅう ことば ようじ せんねい  
今週の言葉「幼児洗礼」

せいしょ ふくいんしょ  
《聖書》マタイによる福音書 3:13-17

ようじ せんねい  
幼児洗礼については、いつも次のような  
ぎもん だ  
疑問が出されます。幼児洗礼を受けて  
じき  
も、ある時期になると反発して教会から  
はな  
離れてしまうし、なんとなくうしろめた  
かん  
さを感じてしまいます。それなら、幼児  
せんねい う  
洗礼を受けない方がいいのではないか。  
ほんにん しんこう えら  
本人が信仰を選べるようになった時に洗  
れい う  
礼を受ければいいのではないか。

しかし、こうした反論があるにもかか  
わらず、幼児洗礼を授けるのにはそれな  
いみ  
りの意味があるはずです。「幼児洗礼の  
しょげん ようじ せんねい しゅうかん  
緒言」では、幼児洗礼の習慣について次  
ぎのように述べています。

ふくいん せんきょう せんねい さず しめい  
『福音を宣教し、洗礼を授ける使命を  
あた きょうかい さいしょ じだい せいじん  
与えられた教会は、最初の時代から成人  
よじ せんねい さず  
ばかりでなく幼児にも洗礼を授けてきた。  
ひと みず れい う  
それは「人は水と靈によって生まれなければ神の国にはいることはできない」(ヨハネ3:5)という主のことばの中に、幼児にも洗礼を拒んではならないことを教会が常に理解してきたからである。

ようじ りょうしん だいふ ば さんか しゃいちどう  
幼児は、両親、代父母、参加者一同が  
せんげん きょうかい なか せんねい う  
宣言する教会の中で洗礼を受ける。この  
ひとびと らいききょうかい だいひょう ば  
人々は地域教会を代表するとともに、母  
きょうかいせんたい だいひょう ば  
なる教会全体を代表しているのである。』

しんこう じぶんひとり そだ せんねい  
信仰が自分一人で育つものなら洗礼そ  
むいみ きょうかい なか  
のものが無意味になります。教会での仲  
ま なか しんこう そだ  
間とのつながりの中で信仰が育つのであ  
せんねい しんこう みち あゆ しゃっぱつてん かんが  
り、洗礼が信仰の道を歩む出発点と考え  
う せんねい さず い  
るなら、生まれてすぐに洗礼を授ける意  
み 味がでてきます。

おや しんこう たい じしん  
もし、親が信仰に対して自信がなく、  
きょうかい なかま はな  
教会の仲間から離れているのなら、形式  
てき せんねい  
的に洗礼をさずけるのはやめるべきです。  
おや こども しんこう そだ こと せんてい  
親が子供の信仰を育てる事を前提にして  
せんねい さず きょうかい いちいん  
洗礼を授けるのですから、教会の一員と  
あゆ こと  
して歩めない事がはっきりしているのな  
ら、洗礼も意味がありません。

ようじ せんねい ひと けんしん ひ せき  
幼児洗礼の人にとって堅信の秘跡はと  
ても大切です。この式によって自分が信  
こう えら みずか したが こと けつい  
仰を選び、自ら従う事を決意するととも  
に、他の人にも働きかけていく使命を受  
けるのです。洗礼は信仰の秘跡であり、  
かみ よ ひと はたら いた  
神からの呼びかけに答えていくものです  
から、神からの働きかけと、私たちから  
こた はじ いみ  
の答えがあって初めて意味がでてくるも  
のです。神からの恵みだけを期待してい  
ても、自分の力だけに頼っていてもいけ  
ません。自分の弱さを認めて神からの力  
う ひとびと はたら こと  
を受け、まわりの人々に働きかける事が  
たいせつ 大切です。

しゅ せんねい しゅじつ ねん たきの  
主の洗礼の主日A年(滝野)